

## 参加にあたってのお願い

- ① 福岡県人権・同和教育研究協議会ホームページ (<https://www3.hp-ez.com/hp/kendo-kyo->) にアクセスし、申し込みください。電話、FAX、メールでの申し込みには対応していません。  
1日め・2日め、ともに事前の申し込みが必要です。申し込みは、7月7日(火)14時から7月22日(水)16時までです。福岡県同教ホームページ【九同教夏期講座】または下記の二次元バーコードからお願いします。難しい場合は、各県同教へご相談ください。(平日10時~16時)  
※申し込み期間内であっても、定員に達した場合は受付終了となります。

### 全体会



← 直接、【全体会・分科会】の申し込みフォームへ

直接、【特別講座・分科会】の申し込みフォームへ →

### 特別講座



☆ 申し込むとメールが返信されます。そのメールは受付が必要となりますので、スマホ等に保存しておくか、印刷して持参してください。※詳しくは、申込フォームをお読みください。

- ② 宿泊予約・昼食準備は、各自でお願いします。  
③ 参加者のための駐車場は確保できません。会場周辺の駐車場を各自でご確認ください。  
④ 荒天時等の変更が生じた場合は、福岡県同教のホームページでお知らせします。

## アクセスマップ

各会場の下記コードからGoogleMapでご確認ください

### 第1分科会

ホテル西鉄イン福岡  
2階 大ホール



### 第2分科会

福岡県中小企業振興センター  
2階 ホール



### 第3分科会

アクロス福岡  
4階 国際会議場



### 第4分科会

福岡生活衛生食品会館  
5階 大会議室



### 第5分科会

福岡県立  
福岡中央高等学校  
講堂



### 第6分科会

福岡県立ももち文化センター  
SAWARAPIA  
大ホール



## 各県 お問い合わせ先

佐賀県同教：0952-62-6434 大分県人教：097-556-1012 長崎県人教：0957-50-1268  
熊本県人教：096-384-5454 宮崎県同教：0985-65-6003 鹿児島県同教：099-218-9310

## 第52回九州地区人権・同和教育夏期講座についてのお問い合わせ先

### 福岡県人権・同和教育研究協議会事務局

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎6階

Tel：092-651-8600 Fax：092-651-8602

e-mail：fukuoka@kendoukyou.com

大会前日・当日の連絡先 090-2399-0860

# 第52回

# 九州地区人権・同和教育夏期講座 開催案内

## ごあいさつ

部落差別をはじめあらゆる差別の解消と人権の確立に向け、九州各地においてご尽力いただいている皆さまに深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、強大な軍事力や経済力を持つ大国による力の理論が大手を振り、国際社会の秩序が危機に瀕しています。「法の支配」や「民主主義」「基本的人権の尊重」といった市民の自由と権利を守るための根幹となる価値観が隅に追いやられ、国連憲章や国際法を無視した武力攻撃によって多くの尊い命が奪われ続けています。国際情勢の不安定さは経済活動の大きなリスクとなり、私たちの日常生活にも深刻な影響を及ぼしています。不確定な社会情勢を背景に国内では、不安や不満の矛先が、社会的に弱い立場にある人たちに向けられ、心ないバッシングや互いを認め合うことなく他者を排除するような主張が横行しています。また、インターネット上には、部落差別を扇動する悪質な書き込みが依然として後を絶ちません。

日本国憲法第14条は、「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない」と規定しています。しかしながら、現在の社会には解決すべき多くの課題が存在します。今年で公布から80年目を迎える日本国憲法、そして成立から10年となる「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」の差別解消三法を軸に、私たちの身の回りにある偏見や差別意識と向き合い、法の下での平等、基本的人権の尊重の実現に向けた取り組みをさらに押し進めることが、私たちに求められています。また、「こども基本法」の理念を踏まえ、子どもを権利の主体と位置づけた保育・教育実践やまちづくりを進めていくことも重要な課題です。

第52回九州地区人権・同和教育夏期講座実行委員長  
九州地区県同教連絡協議会 会長  
有 光 洋

## 日時

2026年8月20日(木) ~ 8月21日(金)

20日(木)

12:00 13:00 13:40 16:30

受付	開会行事	記念講演	
	特別講座 I	特別講座 II	

21日(金)

9:00 9:30 12:00 13:30 15:30

受付	学びと交流 (分科会)	昼食	学びと交流 (分科会)

## 会場

アクロス福岡シンフォニーホール他

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号

## 参加・資料代

4,000円 (当日、受付でお支払いください。)

## 主催

第52回九州地区人権・同和教育夏期講座 実行委員会  
福岡県人権・同和教育研究協議会

## 後援

※申請中を含む

鹿児島県教育委員会、大分県教育委員会、宮崎県教育委員会、長崎県教育委員会、熊本県教育委員会、佐賀県教育委員会、沖縄県教育委員会、公益社団法人全国人権教育研究協議会、全国隣保館連絡協議会九州ブロック協議会、部落解放共闘九州ブロック県民会議、九社連児童養護施設協議会、九州ブロックPTA協議会、福岡県、福岡県教育委員会、福岡市長会、福岡県町村会、福岡県市町村教育委員会連絡協議会、公益社団法人福岡県保育協会、福岡県公立幼稚園・子ども園協会、(一社)福岡県私立幼稚園振興協会、福岡県小学校長会、福岡県中学校長会、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県PTA連合会、福岡県私立中学高等学校保護者会連合会、福岡県公立高等学校PTA連合会、社会福祉法人福岡県社会福祉協議会、公益社団法人福岡県人権研究所、全日本自治団体労働組合福岡県本部、福岡県教職員組合連絡協議会、福岡県高等学校教職員組合、同和問題にとりくむ福岡県宗教学者連絡協議会、部落解放・人権政策確立要求福岡県実行委員会、福岡県企業同和問題推進連絡会、部落解放共闘福岡県民会議 福岡県隣保館連絡協議会

## 記念講演 (大会1日め) (会場:アクロス福岡シンフォニーホール)

### 誰一人取り残さない学校・社会づくりのために ～同和教育、教育改革、国際人権の視点から～

福岡県人権啓発情報センター 館長 谷口 研二さん

「部落差別解消推進法」施行から10年となる今、同和教育、人権教育が果たしてきたことの意味づけ・価値づけと、今後の展望について話してもらいます。教育、学校のあり方が変わろうとするこの時期に、これから先の取り組みについて提言していただきます。

## 特別講座Ⅰ (大会1日め) (会場:アクロス福岡イベントホール)

### 「親や先生以外の大人と子どもたちのご縁をつくり、 自分自身の未来像を描く力(自己効力感)を育むこと」をめざして

株式会社琉球のタネ 代表 佐渡山 要さん  
喜名地区自治会長 安里 哲さん

喜名自治会では、問題行動を起こす不登校の中学生を対象にキャリア教育を実施しています。地域の大人との関係づくりから職場体験まで、段階的にソーシャルスキルを高め社会参画を促す地域協育の実践を報告します。

## 特別講座Ⅱ (大会1日め) (会場:アクロス福岡イベントホール)

### 生きづらさを抱える子どもたちは何を伝えようとしているのか ～子どもの言動に隠されたメッセージ～

筑紫女学園大学 人間科学部 准教授 大西 良さん

家庭や学校で生きづらさを抱える子どもたちの言動を、「問題行動」ではなく「メッセージ」として捉え、その背景にあるSOSや社会的要因に着目しながら、子ども理解と支援のあり方について実践を交えて考察します。

## 学びと交流 (大会2日め分科会)

### 第1分科会

#### 乳幼児期にかかわって

ホテル西鉄イン福岡  
2階 大ホール  
(福岡市中央区天神1-16-1)

#### ●大崎保育所人権・同和保育の取り組み

～親・保育所・専門機関等の連携を通して～

福岡県小郡市立大崎保育所 職員集団  
部落差別をはじめあらゆる差別をなくす子どもたちを育てるというという方針で取り組みを進めています。子どもの生活にかかわる人々、家庭・保育所・地域が同じ視点で保育を行うことの大切さについて報告します。

#### □研究協力者 NPO法人国際臨床保育研究所 代表 勝山 結夢さん

全国人権保育連絡会は、「人権保育の創造に向けての『8つの視点』」を提起しています。それぞれの視点をふまえて「子どもの人権」「乳幼児教育と学校教育の接続・連携」など保育・教育の具体と重ねながら、講話してもらいます。

### 第2分科会

#### 学校の教育力の充実Ⅰ

福岡県中小企業振興センター  
2階 ホール  
(福岡市博多区吉塚本町9-15)

#### ●「個を大切にする」～教育相談部としての取り組み～

学校法人旭進学園 宮崎第一中学高等学校 工藤 和裕さん

本校にも悩みや困り感を持った生徒がたくさんいます。そういった生徒にとって、本校が少しでも心安らぐ居場所になるよう、生徒一人ひとりに寄り添い、傾聴し、その存在を認め力づけています。まだまだ発展途上ではありますが、教育相談部を中心とした本校の取り組みを紹介します。

#### ●「先生は、どうせぼくのこと怒ってるんでしょ！」

～こうたさんが安心して自分らしくいられるために～

鹿児島県鹿屋市立東原小学校 山口 愛さん

報告者は、支援学級に在籍している子どもは自分とは違うと思っている子どものことばかり、自分が子どもたちとどう向き合ってきたかを問い直しました。そして、子どもたちをつなぐなまづくりと、みんなが安心して過ごせる居場所づくりに取り組んだ報告です。

## 学びと交流 (大会2日め分科会)

### 第3分科会

#### 学校の教育力の充実Ⅱ

アクロス福岡  
4階 国際会議場  
(福岡市中央区天神1-1-1)

#### ●「勉強も悪くない」～子どもから私が学んだこと～

長崎県平戸市立中部中学校 江里口 英子 さん

「自分のことを話せるクラス」をめざして取り組んだ3年間。Aさんと始めた学習ノートは、苦手教科の克服から級友とともに学び育ちあう関係づくりへと変容していきました。自分を語ることでくらしや学習、進路と向き合ってきた取り組みを報告します。

#### ●「部落差別との出会いを通して～これまでの私これからの私～」

大分県国東市立国東小学校 安部 詠子さん

部落差別や人権課題との出会いはさまざまである。まず「私自身の部落問題」を自覚することがスタートになるのでは。部落問題学習を通して、子どもたちと共に学んでいく教育の創造をめざし自らを問い直した報告です。

### 第4分科会

#### 子ども支援・親支援Ⅰ

福岡生活衛生食品会館  
5階 大会議室  
(福岡市博多区千代1-2-4)

#### ●「ぼくって、だめだけど・・・、ぼくは学校が好きです」 ～まずは知ることから、人は人の中で育つ～

鹿児島県出水市立東出水小学校 永松 瑞乃さん

ハルトさんとのかわりは報告者に、安心して互いの気持ちを伝え合える関係が学級づくりの土台であるということを感じさせました。その気づきを出発点にして、安心して互いの思いを理解し合える学級づくりに取り組んだ報告です。

#### ●「多様性を尊重した教育環境の整備」

～不登校・発達障害等のある生徒を含めた全ての生徒の学びの保障～

佐賀県立佐賀北高等学校 中村 洋介さん

「HOT SCHOOL」project2.0の理念のもと、多様な背景のある生徒たちの学びを保障するため、太良高校で進められている教育環境整備と人権教育・インクルーシブ教育の実践。そして、それがもたらした生徒の変容についての報告です。

### 第5分科会

#### 子ども支援・親支援Ⅱ

福岡県立福岡中央  
高等学校 講堂  
(福岡市中央区平尾3-20-57)

#### ●「ありのままの私」で安心して過ごすことができる社会の実現をめざして ～子どもたちをエンパワーメントすることをめざした授業のとりくみをとおして～

福岡県立八女工業高等学校 江藤 経史さん

人権学習をきっかけに、生徒自身がクラスの仲間に自分のことを語っていく実践の報告です。人権課題の当事者である子どもたちをエンパワーメントするために、子どもの実態をていねいにつかみ、自分事としての学びを創造することの大切さを提起します。

#### ●「『伴走型支援』の取組から視えてきたこと」

熊本県八代市立日奈久小学校 片白 有紀さん

養護教諭としてできることはなにか、多くの課題を抱えさせられている工藤さん家族との関わりを、様々な関係機関とも連携しながら取り組まれていきます。小学生のゆいさん、はるなさんのくらしに寄り添い、ともに歩いていく中で、『伴走型支援』という言葉に出会い、実践に取り入れた報告です。

### 第6分科会

#### 人権のまちづくり

福岡県立ももち文化センター  
SAWARAPIA 大ホール  
(福岡市早良区百道2-3-15)

#### ●「美咲のまちづくり」～新しい風の吹くまち美咲をめざして～

部落解放同盟福岡県連合会筑紫地区協議会

美咲支部支部長 藤本 勝徳さん

交流と共生を目的に同和对策事業を生かしたまちの整備やカヌー大会、地域の人たちの居場所づくりなど、美咲地区のまちづくりの取り組みを報告します。人が集い、楽しみ、理解し合うことで、部落差別をなくしていきたいという願いが、人権のまちづくりの取り組みとして広がっています。

#### ●多文化共生とは

～子どもの「うん、大丈夫」に、安心していませんか～

鹿児島県出水市役所 多文化共生推進室

銅網 メロ アンジェラ あゆみさん

「外国人」と見られながら日本で育ってきた報告者は、違和感をもちながら辛い経験をしてきました。誰もが自分らしく生きるとはどういうことなのか、報告者の差別体験と日本語教室に通う子どもたちの生活を重ねて気づいた思いを報告します。